

**児童・生徒の現状・課題**

- ・粘り強く挑戦することが苦手。
- ・他者受容や自己肯定感が低い。
- ・知的好奇心を引き出すことが課題。
- ・授業に向かう姿勢・意欲が低い。



**学び続ける力を育むための重点目標**

○他者とのかかわりの中で、学びを得ることができる。(協調性、他者受容)



**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	83.5	90	77
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなど、振り返ることができる。	82.2	90	73.3

**具体的な手だて①**

・課題を選択できるようにしたり、課題を解決する手段を選択したりできるようにする。

**具体的な手だて②**

・個々の課題を把握し、児童の実態に沿った学習課題を設定する。成果をしっかり価値付けすることで、「できた。わかった。」という達成感を味わわせる。

**具体的な手だて③**

・課題解決の際は、適宜友達と関わり合いながら活動できるようにすることで、意欲が持続するようにする。



**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	74.1	85	83.9
②授業では、学習目標の達成や学び方等について振り返る場面を設定し、児童・生徒が達成感を味わったり、次の目標をもったりできるようにしている。	96.5	100	90.4

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

・校内 classroom を活用し、具体的な手立ての取組、またはその他の実践について、共有したり、意見交換をしたりできるようにする。

・授業観察だけではなく、「こんな授業・取組やってみます。」というチャレンジ授業を略案等もなしで行い、授業について見合い、語り合う機会を作る。

**総括(7月)**

子供たちが、自ら学び続けるためには、教師が児童の実態を正確に把握することが必要である。その上で、児童に学習のゴールに向かうための方法や課題の選択、個別もしくは友達と取り組むかなど、自ら決めて取り組んでいく「学び方」を教える必要がある。また、どのようなねらいをもって、この授業の展開にしているのかを保護者に情報発信して、理解を得ながら進めることも大切である。まずは、授業の中に、課題を選択できる場面やどのような学習形態で行うかを選択できる場面を作るところから始めていきたい。

**総括(1月)**

教員の「①児童の学び方を選択できる場面の設定」は意識的に取り組んでいるが、「①児童自ら計画的に学習している」、「②学習を振り返ることができる」においては数値が下がっている。また、教師の「②振り返りの設定」も微減していることから、取り組みが単一的で教員個々の取り組みであったり、統一されていない取り組みとなっているため、自信をもって取り組んでいるといえないと考えられる。発達段階に応じた振り返りの視点や経験の蓄積が必要である。